

# 禪が伝えたお茶の話



画：正親里紗

第1回

## 中国から日本へ

館 隆 志

みなさんこんにちは。館隆志と申します。

この度ご縁をいただき、本号より鎌倉時代の禅寺におけるお茶の話を連載することになりました。茶道が形づくられる以前のお話です。

お茶というのは、言うまでもなく、私たちが毎日飲んでいるあのお茶です。加工した茶樹（チャノキ）の葉から湯・水で成分を抽出した飲料を「お茶」と呼んでいます。私のお寺は静岡県にありますので、お茶を毎日美味しく頂いています。

さて、みなさん自分がお茶を飲んでる姿を想像してみてください。お茶を飲むといわれ頭にイメージした場面は、それぞれ果たして一緒でしょうか？ 急須に茶葉を入れてお湯を注いでくつろぐ姿を想像した人もいるでしょうし、着物を着て茶器に抹茶を入れた後に湯を注いでいる姿を想像した人もいることでしょう。

現在、当たり前のようになっているこのお茶を飲む文化―「喫茶」は、中国から輸入さ

れたものです。そして、お茶の中でも抹茶をもちいた飲み方は、鎌倉時代に主に禅僧によって輸入された中国の喫茶文化が、現在まで継承されていることになりました。

中国で何時からお茶が飲まれるようになったのか、正確なことは解りません。ただ、お茶の樹は中国の雲南省あたりが原産地と考えられており、事実、この地方には数百年どころか千年を超える野生のお茶の樹が多く残っていることで知られています。また、喫茶の風習もこの地方から始まったと考えられています。茶祖と呼ばれている唐代の陸羽（七三三〜八〇四）も『茶経』の中で、「茶は南方の嘉木なり」と記しています。

中国の前漢時代（前二〇二〜後八年）の『僮約』という書物には茶のことが記されていますから、すでにこの時代には長江上流の四川省あたりで、茶が飲まれるようになっていたようです。その後、南北朝時代（四二〇〜五八九）頃には、長江流域で茶が飲まれるよう

になっていきます。そして、唐代（六一八〜九〇七）になり、中国の南部を中心に飲まれていたお茶は、中国の北部でも飲まれるようになります。この時にお茶の普及に重要な役割を果たした一つに「禅宗」を挙げることができます。

仏教はインド発祥の宗教で、禅宗は中国発祥の仏教宗派の一つです。おおよそ紀元前後に、インドから中国に仏教が伝来したと考えられています。この仏教寺院の生活で、茶が飲まれるようになります。インドの宗教と、中国の風習が中国の地で融合したのです。

インドから中国にやってきて、坐禅を中心とした仏教を実践したのは、皆さんご存じの菩提達磨大師です。「達磨—慧可—僧璨—道信—弘忍—慧能」と続いて、その後、多くの宗派に分かれていきますが、その中から臨済宗や曹洞宗という宗派が生まれ、現在もその教えが受け継がれています。一方、弘忍の弟子に神秀という則天武后の帰依を受けた禅僧

があり、当時活躍したこの一派は、後に「北宗」と呼ばれます。

この北宗禪の系統は、しばらくして途絶えてしまいますが、北宗の神秀の弟子であった降魔禪師という僧侶が、山東省の靈巖寺というお寺で行っていた喫茶の文化や方法が民間に広がったということが、『封氏聞見記』という八世紀の史料に記されています。中国南部から北部へ、すなわち中国全土で茶が飲まれるようになるのに、禪は大変重要な役割をなっていたのです。

何時から仏教寺院で茶が飲まれるようになっていたのかはよく解りません。しかし、中国南方の習俗であった「喫茶」という風習が、仏教寺院に導入され、そして、僧侶と仏教寺院を介して、中国北方でも一般にまで広まって行われるようになったということはとても重要です。なぜならば、日本にお茶が入り、広まっていく過程も同じような状況だったと考えられるからです。

中国においてお茶の飲み方が変容していく中で、それぞれの時代のお茶の飲み方までもが僧侶を経由して日本にも導入されていきました。そして、日本においても茶が一般的な飲み物として広がるのに、「禪宗」が大きな役割を果たしていたのです。

宋の時代の中国の喫茶文化、いわゆる抹茶を用いた宋式喫茶文化を禅僧が日本に導入し、継承しました。しかし、当の中国では抹茶を用いた喫茶文化は用いられなくなり、茶葉に直接湯を注ぐ方法が生み出されました。抹茶を用いた喫茶方法は、日本でのみ継承されていったのです。そのような歴史を、次回以降より、お話ししていきたいと思えます。

館 隆志（たちりゅうし）

一九七六年静岡県沼津市生まれ。二〇〇九年駒澤大学大学院博士課程修了、博士（仏教学）。駒澤大学専任講師・花園大学国際禅学研究所客員研究員。著書に『園城寺公胤の研究』（春秋社）、『關漢道隆禪師全集』第一巻（共編、思文閣出版）。

# お願い

## 花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の郵便はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

\*※切りは毎月1日です。

## 『花園』へのご意見・感想など

本誌へのご意見・感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。

送り先

〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64  
妙心寺派宗務本所内編集室  
俳壇／歌壇／花園 係

\*住所、氏名を必ずお書きください。

\*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

\*なお投稿はお返しいたしません。

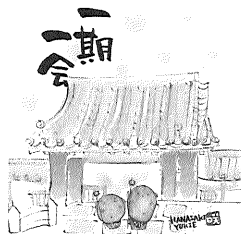


「いつもココロに花園を」  
あなたとわたしのポケットエッセイ集

- 【花園】第70巻 第4号(通巻第824号)  
令和2年4月1日発行(毎月1日発行)  
定価55円
- 【発行人】栗原正雄  
【編集人】畠中寿浩  
【印刷人】喜田眞司
- 【発行所】京都市右京区花園妙心寺町64  
妙心寺派宗務本所 教化センター  
振替／01060-9-1400  
電話／075-463-3121

表紙の絵

「一期一会」



生涯に一度しかないと心得て、誠意を  
尽くし出会いひとつひとつを大切に  
していこう。

絵・花咲幸絵

月刊『花園』1冊送りの年間購読料は、1,560円(税・送料込)です。  
下記のお電話か、ホームページでお申込みください。

【妙心寺派宗務本所 頒布課】電話：075-467-2990

【妙心寺派直売店 web shop】

<http://www.myoshinji-shop.jp/fs/myoshinji/g05-0002>

\*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。